

各位

2020 年 1 月 11 日(土)

桜丘高等学校 生徒会・生徒
桜丘学園孫便り I・A クラブ

～今日で東日本大震災から 8 年 10 カ月が経過～

東日本大震災が発生して 8 年 10 か月が経過しました。被災地気仙沼では、時の経過とともに変貌していく街並みに反比例して、震災の様子を口に出して語ることが出来なくなり、心の片隅にしまい込んでいく人が増えています。これは阪神淡路大震災の時もそうでしたが、やはりそのような時、私たちに出来ることは、話を聞いてあげることにつきます。そっと寄り添い話を聞くこと、そして思いを共有していくことです。するとお爺ちゃん・お婆ちゃん達の顔が、みるみる明るくなっていくのです。

<12 月 20 日(金)～23 日 (月) 第 24 回気仙沼復興支援活動>

～クリスマス会&餅つき&気仙沼市大島&宮城県山元町での交流～

昨年 12 月 20 日から 24 日にかけて 1 泊 4 日（片道 13 時間：車中 2 泊）で、24 回目の東日本大震災に興支援行動に参加者 26 名（引率 2 名）で出かけてきました。今回、21 日午前中は津波の被害を受けた畑で震災後収穫出来るようになったネギの出荷のお手伝いをするという作業をし、その後気仙沼大橋を渡って、大島では災害公営住宅のお年寄りの方々を訪問してクリスマスプレゼントをお渡しすると同時に、各家に子供たちがお邪魔して、お話を伺うなどしたのですが、皆さん待ち焦がれていた様子で、つい時間の経過を忘れてしまう笑顔あふれる温かい交流会となりました。

そして翌日には 3 臼の餅つきを実施。つきたての餅を餡子（あんこ）・黄な粉・おろし餅にして一緒に食べたり、復興住宅のほうに持って行ったのですが、非常に喜んで貰え有意義なひと時となりましたし、その後は中学校が学習支援をしていた山元町の方に寄って、交流し戻ってきました。これからも継続支援したいと思っておりますので、豊橋市の皆さん方、ご支援・ご理解下さいます様宜しくお願い致します。

<参加生徒の声>

- 8 年経っても、まだ怖いという思いがあることに驚いた
- 生きている生活がありがたいと思った。風化されないよう伝えることが大切。感謝することを忘れずに生活していきたい。
- 被害状況を聞いて、風化させたくないと思った。募金と違う視点で知れたことがいい経験になった
- 同世代の友達も出来て、次回も参加したい。とても勉強になった。